

勇進館様にて居合切りを体験しました！

Introduction

三利特殊鋼と繋がりがあある鋼。同じく鋼を使用し、作られている日本刀。
今回は同じ鋼という分野に携わらせて頂いているので、居合の試し切りができるという
大阪・京橋にあります、「勇進館」様へご訪問させて頂きました。

勇進館様について

古流武術を主体として、宗家 瀬戸天勇宏俊が創始した勇進流刀技術を修行する道場です。主に居合形・剣術・体術・試斬術を修行していらっしゃいます。一般の居合にみられる形だけではなく、その形で実際に斬ることの出来る真の刀技術を探求していらっしゃいます。

もちろん、技だけでなく、人に対する礼儀や日本古来の武士道にも目を向け、日々研鑽されている道場です。詳しくは、ホームページをご覧ください。 <http://yusinryu.com/data/tameshigiri>



玉鋼と日本刀

弊社とも深い関わりがある鋼ですが、日本刀は玉鋼という鋼を使用しており、この玉鋼でしか日本刀は作れないのです。日本刀は「折れず、曲がらず、よく切れる」ことが求められ、強靱な刃身を作るには鋼に含まれる成分のバランスが重要です。玉鋼の炭素含有量は1.2%前後で、高温で鍛錬して炭素量を減少させながら作りあげる日本刀に適しています。日本刀は熱した玉鋼の両面を交互に15回ほど鍛錬し、3万ほどの層が重なりあった状態に仕上げていきます。繰り返して鍛錬すると次第に炭素量が下がっていき、仕上がり時0.7%前後の炭素量となり、この炭素量に整うと「折れず、曲がらず、よく切れる」を備えた刀身となっていきます。



試し切り体験をして…

私自身、日本刀を手にしたのは初めてでしたが、実際に体験に行かせて頂くまでは、甘い考えで、「体験だから、本格的な日本刀を使うことはないだろうから怖くない」「体験だから、簡単に出来てすぐ終わる」と思っていました。体験が終わり、帰路につく頃には、そんな甘い考えでいた自分を猛省致しました。実際体験させて頂くと、まず**重い**。非常に重かったです。

幾ら鋼とは言え、片手で簡単に持ち上がると思っていた私は、手にした瞬間に身体がふらつきました。そして次に怖いという感情が湧いてきました。日本刀をしっかりと構えて、振り下ろし、藁を斬る練習をさせて頂くのですが、もし落としたり、自分の身体に当たったり…と考えると、躊躇してしまい、最初はうまく斬ることが出来ませんでした。しかし何度か練習を重ね、一発で藁を斬り落とすことが出来た時は、何とも言えない、爽快感と達成感を得ることが出来ました。

僅か30分という短い体験でしたが、日常では経験できないことでしたので、貴重な体験となりました。

皆様もぜひ、この非日常をご体験ください。



社長濱井と営業担当高田が
訪問しました！